



運動会が終わり、なんとなくホッとして空を見上げると、青空にうろこ雲が浮かんでいました。園庭の木々も秋風に舞い始め、冬への準備を始めました。

毎年この頃になると、大縄とびが盛んになります。一人でチャレンジしていた縄とびが上手になると、

次は友達と一緒に

「おーなみ、こなみ」から

「ゆうびんやさん、おとしもの」と

次から次へレパートリーを広げ、皆で声を揃えて歌い、一緒に跳んでいます。

子ども達の元気な声が、キンと澄みきった大気を揺すり、秋が深まっています。



行事予定表

5	木	子育てサロン
10	火	ピヨピヨひろば
12	木	街探検(牛久二小2年生園訪問)
16	月	尿・蟻虫卵検査提出日
17	火	交通安全教室(3・4・5歳児)
18	水	おべんとうデー
19	木	内科検診(15:00~)/子育てサロン
25	水	誕生会
26	木	歯科検診(10:00~)/巡回相談(13:30~)
27	金	避難訓練
30	月	航空写真・集合写真撮影

やっと晴れたね！運動会

先日の運動会は、秋晴れの汗ばむ気候の中、沢山の方にご参加、ご声援を頂きましてありがとうございます。かっこいい姿が見られたり、リレーでの勝負に涙する子もいましたね。その他の競技でも、お子さんの成長の様子をご覧頂けたのではないのでしょうか。今週も、他年齢の遊戯・競技を再現し、運動会ごっこを楽しんでいます。

★今月は深まる秋の自然に触れながら散歩をしたり、自然物を使って遊ぶ計画を立てています。手洗い、うがいの習慣化し、感染症を防ぎます。

今月の予定の中から

●街探検(12日)

・牛久二小の2年生が街探検という授業の中で保育園を訪問します。毎年、卒園児の姿が見られ今年も楽しみです。

●尿蟻虫卵検査提出日(16日)

・お子さんの体調管理にはとても大切な事です。詳細は後日お知らせを配布致しますので、ご協力お願い致します。

●交通安全教室(17日)

・晴天時は、通称ヤオコー公園まで3・4・5歳児で交通ルールを確認しながら教員と共に遊びに行きます。どうか、晴れますように！

●内科検診(19日)／歯科検診(26日)

・当日欠席の場合も、受診時間に来園して頂き、全員の方の受診を必ずお願い致します。

●誕生会(25日)

・今月は、手話の会「わ・わ・和」の方々に、絵カードや手話ソング、紙芝居などの楽しい時間を企画して頂いています。子ども達が手話に興味を持つきっかけとなれば幸いです。

まんまるお月さま

・ある日の降園時、薄暗い駐車場に向かう中、「おつきさままんまるだよ！ほらみて。」と子どもに声を掛けるお母さん！その後続く何

人かもお月さまの事を話題にしてみました。忙しい中でも夜空を見上げる事の出来る心の余裕って大切ですね。大人の感じる心が子どもに伝わるとても素敵な瞬間でした。

☆お知らせ★お願い

☆ジャンパーのご用意をお願い致します。

・戸外遊びの際に着用する薄手のジャンパー(名前を記入した物)を必要に応じてご用意ください。ジャンパーは、月曜日から金曜日まで園に置いて頂き、週末には持ち帰って、洗濯をお願い致します。また、ジャンパーを掛けるハンガーにも名前を書いてお持ち下さい。宜しくお願致します。

★保育室の出席ブック用のシールが足りなかつたり、忘れ物などのある場合は、担任または近くにいる職員にお声掛けください。

★ティッシュペーパーと雑巾のご寄付をご協力頂けると大変有り難いです。

子育て支援とは？

児童虐待が毎年増加している。虐待につながる家庭の状況は、その多くが、経済的な困難を伴っている。又、虐待する親の多くが、幼少期に虐待された経験があった。殴られて育つたため、子どもを育てるのに暴力をふるう必要があると思ってしまう。虐待の連鎖である。親も被害者であった。自分も親に厳しく育てられ、勉強も完璧を求められ、できないでいると殴られ、自分の子どもにも同じように求め、できないと体罰を加え、追い込む親がいる。同じように母親から育児放棄された人が、自分も同じように「この子さえいなければ」と食事をろくに与えず、虐待するようになる。子どもが虐待を受けずに安心して生活できるようにしたい。そのためには親への支援が必要だ。▼昔のことだが、3人の子を幼稚園に通わせていたが、保育料も入園料も

払わない人がいた。事情を聞くと、お父さんがいなくなり、お母さん一人で、早朝の仕事をし、家に帰り、子どもの朝食を作り、幼稚園に送り出すと、直ぐに仕事に出掛け、夕食の頃に家に帰り、夕食を食べさせると、また夜の仕事に出掛けなければならぬ、とのことだった。胸が痛くなった。何とか保育料を支払うと言った。「いつか、払えるようになったら払えばいいですよ。それより体に注意して下さい」としか言えなかった。このお母さんは虐待なんかしていませんが、やはり支援が必要だった。川崎のお母さんは5人もの子どもを抱え、獅子奮迅、身を粉にして、掛け持ちでパートをして、朝から夜中まで働いていたという。子どもに食べさせることだけで精いっぱいだった。▼夢をつむぐ子育て支援が、政府の3本の矢の一つだというが、信じられない。4月に施行された子ども子育て支援法の趣旨は、子育て支援・保護者の負担軽減と、幼稚園も保育園も、公立も私立も分け隔てなく保障するようにするものだった。しかし、フタを開けてみると、一号認定で、第二子、第三子を幼稚園に通わせている人の中には、負担が増えている人がいる。▼口先ばかりでは夢はつむげない。「子育て支援」とは、お母さん達が、もつとゆつたりと子育てを楽しめるようにすることだと思おう。オーストラリアのシドニー在住の友人から聞いた話では、子ども一人当たり多額の直接補助があるという。これなら経済的な理由から追い詰められている母親を救うことができる。先の3人の子持ちのお母さんも、川崎の5人の子を持つお母さんも、救われたであろう。

